

学校教育目標 未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

～ やさしい子：やさしいっばい かしい子：かっばい たくましい子：やる気っばい ～



和土小だより

〒339-0033 さいたま市岩槻区黒谷1353番地 TEL048-798-0208 / FAX048-798-8730

学校Webページ：<https://wado-e.saitama-city.ed.jp/> Eメール：wado-e@saitama-city.ed.jp

さいたま市立和土小学校

令和7年1月31日(金)

2月号 発行者 池田 誠

児童数 150名

知りたい、やってみたいと思う好機を逃さない

校長 池田 誠

この時期、学校の花壇周辺ではモグラ塚がたくさん見られます。子どもを思い出して、その塚を掘ってみましたが、やはりモグラの姿は見えず、ぽっかり穴だけが残りました。その穴を埋めながら、「次こそはモグラ発見！」と楽しみにしている今日この頃です。

さて、2月の生活目標は「一年間の学習のまとめをしよう」です。この一年間、児童は様々な学習に取り組んできました。この2月も新しい学習を進めるとともに、一年間の学習を振り返り、学習内容を確実に身に付けられるように取り組んでいるところです。

本校でも、児童の発達段階や学んできたこと、生活の経験、地域性を考慮して年間の学習指導計画や行事計画を作成し、それに基づいて授業などを計画的に行っています。教員は各教科において、児童が学習内容を確実に理解できるように、教科書やタブレット端末、ドリル類など活用しています。また、教室にいる児童全員に対して教員が進める一斉授業の他に、学年や教科に応じて児童一人ひとりの学びに適した個別学習や、児童同士の教え合い・協働制作などを行う協働学習を取り入れながら授業を進めています。

その授業では、児童との関わりにおいて適時適切を心がけ、児童が知りたい、やってみたいという思いを教員が見逃さないようにしています。児童のこの思いを生かすためにも、児童一人ひとりの学びの最も適した時機を見極め、指導や支援をしたり、気づきや手がかりを与えたりすることが大切だと考えています。その時機が合うと、知りたい、やってみたいという思いを強くもって自ら進んで学習を進めたり、理解を深めたりします。さらに、児童は分かった、できたという気持ちと、学習への自信をもち、笑顔も見られるようになります。そのような児童を見ると、私たち教員は嬉しくなり、やりがいを感じます。しかし残念ながら、いつもうまくいくとは限らず、知りたい、やってみたいという思いを促す最も適した時機を捉える難しさを感じることは多くあります。

中国の仏教書「碧巖録(へきがんろく)」に、「啐啄同時(そつとくどうじ)」という言葉があります。「啐は驚く、呼ぶ」、「啄はついでに」という意味です。鳥の雛が卵の中から殻を突くことを「啐」、その時、親鳥が外から卵の殻をついでに「啄」と言います。卵の中の雛が突いていることを親鳥が気付かない、突いていないのに親鳥が殻をついでに「啄」もいけないうのです。同時でなければなりません。両者が一致して雛が生まれることから「絶好の好機、またとない好機」を表す言葉として使われます。

この言葉は、学習活動における教員と児童の関係性に似ていると考えています。親鳥=教員、雛=児童と考えると、私たち教員は、殻を突くこと=知りたい、やってみたいという合図もしていないのに、殻をついでにむこと=無理矢理に学ばせようとするのを控えるようにしています。また、児童が卵の中から殻を突くような機会をずっと待つということも同じです。内側から突かせるような準備や刺激=知りたい、やってみたいという思いをもたせる課題や機会を与えることが必要だと考えています。児童一人ひとりの知りたい、やってみたいと思う好機を逃さないよう、学びの時機を見極め適切な指導や支援と、気づきや手がかりを与え、児童の成長=自立した学習ができるように努めているところです。

今年度も残り2か月となりました。引き続き、児童の学びが実りあるものとなるように鋭意努力するとともに、一年間の学習のまとめを着実にしながら、進級と進学に備えていこうと考えています。

結びに、暦の上では立春を迎えますが、厳寒の折でございます。保護者・地域の皆様、何卒、体調を崩しませんようくれぐれも気を付けてお過ごしください。

学校だより「冬休み直前号」でお知らせしました、「シェフ給食」の様子について、さいたま市公式YouTubeチャンネルにて、令和7年1月7日(火)から動画配信されました。ご覧ください。

【URL】 <https://www.youtube.com/watch?v=jDLZ5jSP0k0>

【二次元コード】



【駐車場脇にある金柑】